



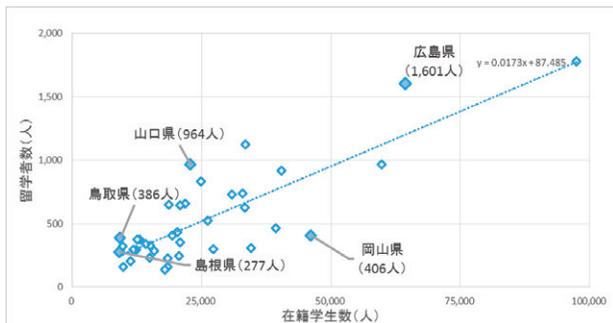
世界で活躍できる人材を育てたい 岡山発！留学生倍増計画

岡山県県民生活部国際課

グローバル人材の育成

2016年5月、岡山県で「G7 倉敷教育大臣会合」が開催され、Kurashiki Declaration（倉敷宣言）にG7各国が連携して教育のグローバル化を進めて行くことが盛り込まれました。

これを踏まえ、岡山県では、2017年3月に、県政において最上位に位置づけられる総合的な計画である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」に「グローバル人材育成プログラム」を盛り込み、子供たちの英語力の向上と国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。



データ出典元：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）2015年度のデータを基に、近似式で計算した岡山の留学生数は796人であるが、実数は406人とどまっている。

岡山発！留学生倍増計画

グローバル人材の育成に効果的とされる留学ですが、大学関係者などからは「多くの学生にとって留学は現実的な選択肢ではない」という声があり、県内に在籍する学生の数に対する留学者数の割合が全国的に見ても低い状況にあります。その要因としては、留学経費や留年リスク、言語や生活の不安などがあるようです。

その一方で、「留学をしたいと考える学生は中高生の頃から意欲を持っている」「交換留学など長期の留学の前には2、3週間の短期留学や語学研修を経験している」という状況も見られました。

こうした状況を踏まえ、将来的に留学者数を増やすため、2017年度から「岡山発！留学生倍増計画」をスタートさせました。

「岡山発！留学生倍増計画」は、2017年度から2020年度までを事業実施期間とする県の重点事業です。学生の留学への関心を喚起するとともに、留学の具体的な選択肢を充実させることで留学者数を増加させることを目標にしています。

おかやま若者グローバルチャレンジ 応援事業

県では、2015年度から産学官が連携して「おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業（トビタテ！留学JAPAN 地域人材コース）」を実施しています。県内大学生などの「留学したい！」という熱意に地元経済界などが応援団として応え、未来の岡山に貢献するグローバル人材が育つことを楽しみに、毎年学生を海外へ送り出しています。そして、留学した学生たちはそれぞれ日本では得られなかった「何か」を持ち帰っています。



おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業の壮行会
多くの協賛企業などに支えられ、留学にチャレンジしています。

その先輩たちに続いてほしい。できるだけ多くの学生たちに留学を経験してほしいと考え、新たに「留学」に関するイベントを開催することにしました。

留学促進フェア in OKAYAMA

まずは、留学について関心を持ってもらおうと、留学にまつわる情報や具体的なエピソードなどを聞いてもらうことを考えました。「岡山発！留学生倍増計画」のファーストステップ、留学への関心の喚起です。



ジャパントイムズ執行役員の大門小百合さんによる講演会
第2回留学促進フェア in OKAYAMA 2018 (2018年10月21日)

第1回留学促進フェアでは、知事がタレントの関根麻里さんと対談。留学しようと思ったきっかけや思い、留学に向けて取り組んだこと、留学先でのエピソードなどを披露しました。第2回となった今年度のフェアでは、ジャパントイムズ執行役員の大門小百合さんの講演会を開催。高校、大学、社会人として、また家族同伴でさまざまな段階で留学した経験をわかりやすくお話いただきました。参加した学生に「ぜひ留学を真剣に考えてほしい」とメッセージを伝え、参加者からは「具体的な話でわかりやすかった」「留学を考えたい」という声が聞かれました。フェアをきっかけに家族としっかり話し合っ、ぜひ留学を実現させたいといった学生もいました。

興味を持ったら、次は情報収集。留学を実現させるた



駐大阪・神戸米国総領事館と在大阪オーストラリア総領事館の協力で、現地大学との個別懇談会を実施。(第2回2018年10月21日)



在大阪オーストラリア総領事館のミニセミナー。ほかに駐大阪・神戸米国総領事館やJASSOも実施。(第2回2018年10月21日)

めの、生きた情報を収集してもらおうと、駐大阪・神戸米国総領事館、在大阪オーストラリア総領事館の協力を得て、現地の大学を招へいし、個別相談会を開催しました。第1回は米国15大学、第2回は米国14大学、オーストラリア8大学の参加があり、学生たちは日本語と英語を交えながら、各大学の特徴や支援制度、現地の情報などを熱心に聞いていました。また、総領事館やJASSO(独立行政法人日本学生支援機構)のミニセミナーや県内の企業や大学の留学経験者が座長となったミニ座談会も実施。少人数での相談形式とすることで、より具体的な内容を知ることができ、米国、オーストラリア、そして留学を少し身近に感じたのではないかと思います。



留学経験者との座談会。地元企業の社員や大学生、大学院生らが座長を務めました。(第1回2017年10月28日)

結果として、留学生が増えていくのは、まだ先の話かもしれません。しかし、少しずつでも留学は特別なことではなく、自分の将来にとって有用な一つの手段なのだと考えてもらえるよう、そして一人でも多くの世界へ羽ばたく若い力が育つよう、取り組んでいきたいと考えています。